

特集

肩の痛みで困っていませんか？

九州大学病院リハビリテーション科 助教
原土井病院 整形外科 竹内直英



竹内直英 医学博士 プロフィール

- 出身大学 九州大学 (平成13年卒)
- 出身医局 九州大学整形外科
- 専門領域 肩関節外科、手の外科、肘関節外科、外傷整形外科
- 外来日 毎週水曜日
- 所属学会・専門医 日本整形外科学会専門医
日本肩関節学会
日本手外科学会手外科専門医
日本骨折治療学会評議員
日本救急医学会専門医
九州肩関節研究会世話人
福岡整形外傷研究会世話人
天神手外科セミナー世話人
- 2010年ドイツ留学 (AO fellowship: マインツ大学)
- 九州学生アメリカンフットボールゲームドクター(2014年～)
- 趣味/ジョギング、音楽鑑賞 (ビートルズ、エリック・クラプトンが好きです)

腱板断裂

腱板断裂は、中高年に多く見られる肩関節疾患の一つです。

腱板断裂の原因は、加齢による変性と外傷が考えられます。50歳以降になると、腱板の変性が進み、腱板断裂が生じます。腱板断裂により上腕を挙上するときの痛みや、上腕を挙げにくいといった症状が出現します。腱板断裂の治療は、まず鎮痛薬や注射療法（ヒアルロン酸、ステロイド）などの保存治療を行います。しかし、3ヶ月以上の症状が続く場合は、腱板修復術の適応となります。当院では、鏡視下腱板修復術（Suture bridge法）を行っております。

過去に治療した鏡視下腱板修復術123例の治療成績ですが、日本整形外科学会治療判定

基準では術前69・2点が術後6ヶ月で90・4点（100点満点）に改善しました。この手術により上腕挙上時の痛みを改善することが期待できます。

1 断裂した棘上・棘下筋

2 腱板にアンカー糸を通す

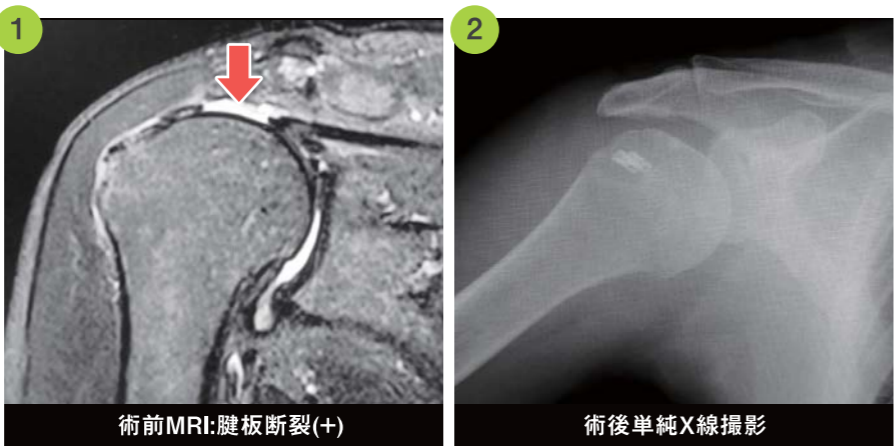
3 腱板修復後 (Suture bridge法)

鏡視下腱板修復術

肩関節の痛みはみなさまこれまで一度は経験されたことがあるかと思えます。

厚生労働省による国民生活基礎調査（H28年）によると、肩関節痛の有訴者率は、男性では第2位、女性では第1位であり、肩の痛みで困っている方も多く見られます。肩の痛みの原因は、五十肩（肩関節周囲炎）がよく知られていますが、そのほかに腱板断裂、石灰沈着性腱炎、変形性肩関節症などがあります。また、50歳以上の4人中1人に腱板損傷があるとされています。五十肩と思っておいたら、痛みが続くため精密検査をしたところ、腱板断裂が見つかったというのをよく耳にします。

肩関節の痛みや腕が挙がらないといった症状は、日常生活動作を大きく制限する一因となります。肩関節の痛みを生じる代表的な疾患は以下の通りです。



腱板断裂性関節症

腱板断裂を放置すると、上腕骨頭が上方に移動し、上腕骨と肩甲骨の適合性が悪くなり、関節が傷んでいきます。そうなること、肩関節の痛みや肩が挙がらない症状が出現します。

腱板断裂後に関節症性変化を生じ、肩関節の挙上が困難な70歳以上の患者さんには、リバー入型人工肩関節置換術を行う必要があります。

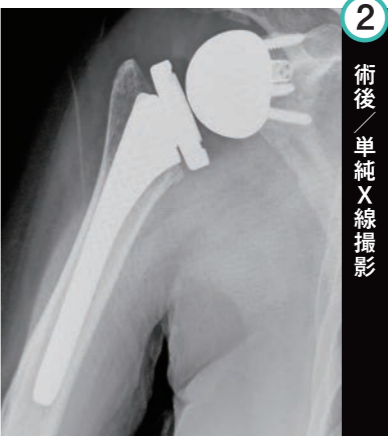
この手術により肩関節の痛みが軽減し、肩関節の挙上を改善することが期待できます。



③ 術後 3ヶ月



② 術後／単純X線撮影



① 術前／単純X線撮影



五十肩（肩関節周囲炎）

肩関節周囲の組織に炎症が起きることが主な原因です。肩関節を包む袋（関節包、肩峰下滑液包）が癒着するとさらに動きが悪くなり、拘縮を生じます。

注射療法やリハビリで治癒することが多いですが、拘縮が続く場合は、手術が必要になることがあります。

上腕骨近位部骨折

転倒によって生じる高齢者に多い骨折の一つです。骨折のずれが小さい場合は三角巾などを用いた治療で治癒しますが、ずれが大きい場合は手術（骨接合術）が必要となります。

骨折手術においては骨接合法における「Global Standard」と呼ばれるAO法を取り入れております。AOコースのインストラクターとしての指導経験を生かして、適切でかつ最新の骨折治療を行っております。

し、最善で安全な医療を行うことを心がけております。そして肩関節の症状でお困りの患者さんに、安心して医療を受けていただき、信頼していただけるように努めていきます。

は、関節唇修復術が必要となります。

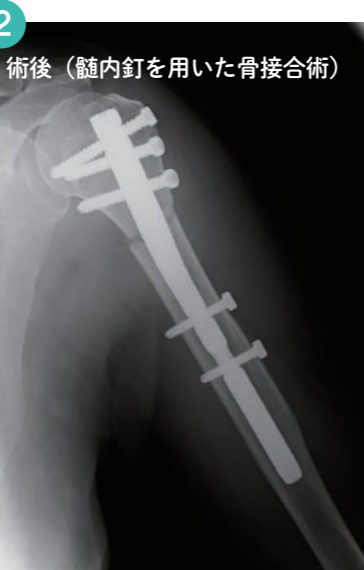


このように肩関節痛

に関連する疾患は多岐にわたります。そのため、肩関節痛の原因を正確に診断するには、専門的な知識と経験が必要です。

当院では、肩関節の

専門外来を行っております。私たちは、専門的知識と診療技術をもとに、患者さんのニーズに応じた最適な治療（薬物療法、注射療法、リハビリテーション）を行っております。また、手術が必要な患者さんに対しては、関節鏡手術や人工関節手術を行っております。患者さんの求めていること、希望していることを正しく理解



② 術後（髓内釘を用いた骨接合術）



① 術前

スポーツ傷害（反復性肩関節脱臼など）

ラグビー・アメリカンフットボール・柔道などのコンタクトスポーツでは、肩関節脱臼の頻度が高いです。原因は、肩関節の関節唇が損傷し、関節が緩くなるためです。正しい治療を行わないと脱臼を繰り返すことになります。脱臼を繰り返す場合

